

中年年齢層被験者の表現用語間隔及び臭気提示を伴う場合の表現用語間隔に関する検討

においの強さ・快適性に関する各種の言語評価尺度における表現用語間隔の比較（その2）

日本建築学会環境系論文集/ No. 648/ pp. 189-196/ 2010 年 2 月

正会員 竹村明久君

本研究は、建物内の臭気強度と不快感の評価に用いられる様々な言語評価尺度の表現用語間の心理的距離を同定することを目的とする一連の研究の第2報である。

調査・実験は、いずれも緻密な計画に基づいて実施されており、国内外の7種類の臭気評価尺度を比較対象として、まず言語イメージに基づく言語評価尺度間隔の調査を基に臭気評価尺度ごとに中年年齢層と若年齢層の回答の相違を検証している。次に試料臭気を被験者に提示する主観評価実験のデータに最大相関係数法を適用し、臭気評価尺度ごとにその適否を詳細に分析している。

提案された最大相関係数法は、Weber-Fechner 則に従うことのみが必要条件であるという利点があり、さらに尺度の順位が逆転する場合にも適用可能である点で、臭気以外の環境心理生理分野での研究手法にも応用可能であるという独創的かつ新規性のある手法である。

奨励賞に相応しい独創性の高い内容となっており、さらなる発展に期待を持たせる優れた研究である。